

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

| | | |
|---------|-----------|------|
| 団 体 名 | 久留米市 | |
| 施 設 名 | 久留米シティプラザ | |
| 助成対象活動名 | 人材養成事業 | |
| 内定額(総額) | 2,036 | (千円) |
| 公 演 事 業 | | (千円) |
| 人材養成事業 | 2,036 | (千円) |
| 普及啓発事業 | | (千円) |

(2) 平成30年度実施事業一覧

| 【人材養成事業】 | | | | | |
|----------------|-------------|-----------------------|------------------------|----------|-----|
| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 小松杏里のくるめ演劇塾 | H30. 5. 12~H31. 2. 17 | 塾長・講師：小松杏里 ほか | 目標値 | 130 |
| | | 久留米シティプラザ | | 実績値 | 299 |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| 平成30年度の目標値、実績値 | | | | 目標値 | 130 |
| | | | | 実績値 | 299 |

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

久留米市では、市の基本計画の柱である「創造的な文化芸術活動の推進」を具体化するものとして、平成27年度より久留米市文化芸術振興基本計画を制定しました。本計画は「市民が主役の楽しい文化創造都市・久留米」を理念とし、5年後の平成31年度には「久留米シティプラザや美術館などの文化施設や暮らしの身近な場所で、さまざまな文化芸術を鑑賞したり、活動する人が増え、豊かな心と創造性が育まれるまち」となる姿を目指しています。

本事業は、久留米シティプラザという文化芸術の拠点施設を活動の場とし、計画の柱の一つである「市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成」を行うため、演劇を通じて「表現する喜び」や「コミュニケーション能力の向上」「世代間交流」など現代社会において課題とされる問題に対応していくこととしています。

久留米シティプラザの開館年度である平成28年度から平成30年度までの3年間、演劇を題材とした鑑賞事業や人材養成を目的とした演劇講座などを市民に提供してまいりました。当該年度（平成30年度）については、これまで専門性の高い技術や一定の経験を要す技能の習得を目指した演劇講座だけではなく、初心者も気軽に自由に参加できるワークショップ形式の講習を開催するなど新たな取り組みも実施したことにより、事業参加者の増加をもたらすことができました。一方では、未経験者やスポット参加者が増加したことによって、発表会等の設えに十分な時間の確保ができなかったことから、当初予算を下回る準備費用となりましたが、内容自体には不足なく講習や発表会等を実施することができました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

上述のとおり、本事業は、久留米市文化芸術振興基本計画に則ったものであり、計画の柱である「市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成」を実践するための位置付けとしていおり、全ての市民が文化芸術に関心を持ち、生涯にわたり関わっていける取り組みであり、特に次代を担う子どもたちの豊かな感性や創造性を育むことは重要であるため、子どもたちへの取り組みの充実を図ることを目的としています。

久留米市では、本事業の実施を通じて、久留米ならではの文化資源を活かすとともに、将来の文化芸術活動の担い手を育てていくことによって、計画の実現を目指すものであり、今後も助成に値し得る継続的な事業計画を立案・実施していく必要があると考えています。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

久留米市文化芸術振興基本計画では、文化芸術振興事業の創造・発信の拠点として久留米シティプラザが挙げられており、計画の柱である『市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成』を掲げています。文化芸術を担うのは「ひと」であり、年齢、性別、障がいの有無、国籍等を問わず、すべての市民が文化芸術に関心を持ち、生涯にわたり関わっていける取り組みを進めています。次代を担う子どもたちの豊かな創造力や感性を育むことは重要であり、子どもたちへの取り組みの充実を図るとともに、今後の高齢化社会を見据え、高齢者がいきいきと文化芸術活動に関わっていくことができるような取り組みを進め、その結果として演劇や演芸分野で活動した市民の割合を拡大することを目標としています。

本事業では、久留米市内外から広く参加者を募り、下は小学生の10代から上は70代と、幅広い世代の男女にわたったことや、講師もそれぞれ個性的な表現活動をしている方々のレッスンによって様々な表現の可能性を伝えることができました。幅広い世代が参加したことによって、世代間のコミュニケーションも深まり、次の世代への文化芸術の伝達という効果も生まれました。発表公演に向けて、参加者の中からスタッフワークも希望する者が出てきたことは、市民の自主的な文化活動への参加意識を感じられ、この事業を基に、市民による劇場の活性化に繋がるものになりました。

また、指標として市政アンケート及び市民意識調査において、「演劇や演芸の分野で最近1年間に制作や発表、練習など実際に活動したものはありますか」という項目では、平成28年度が0.7%、平成29年度が2.6%、平成30年度が1.0%となっており、起点となる平成28年度から平成30年度にかけては微増程度に留まっています。しかしながら、事業参加者向けのアンケートでは、演劇や音楽に触れることについての満足感を得られる回答を得ることができました。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

年間を通して、各コースに日程等の遅滞はなく、当初に計画にほぼ適合したスケジュールで進捗することができました。

一方の費用面では、当初、発表会で本格的な舞台仕込を予定していましたが、未経験者の参加が多くなったことにより、参加者の人数や技能、経験など各レベルに応じた舞台仕込へ変更したため、予定よりも費用を圧縮することになりましたが、内容自体に不足なく実施することができました。結果的には、特別ゼミやワークショップの参加者が増加し、経費面では予算を下回る実績で事業を効率良く実施することができました。

実施日程：〔前期〕2018年5月～8月／〔後期〕2018年9月～2019年2月

実施コース：

- (1) 特別ゼミコース（通年〔前期・後期〕・全11回・各回180分・各期ごと募集）
／演劇の楽しさを知ってもらう自由参加型コース
- (2) プラ座コース（通年〔前期・後期〕・全60回・各回120分・期ごとに連続参加、
期末発表会あり）／高い技術を習得し発表公演に向けて演劇を学ぶコース
- (3) だれでもワークショップクラス（夏休みを含めた前期と後期の間の期間・ダンス、
演劇、ジュニア演劇、映像、くるめと安徳天皇各クラス3回全15回・各回90～120分・
クラスごとに募集）／初心者でも参加でき、各表現の基本や久留米に関わる歴史や表現を
学ぶことができるクラス

カリキュラム詳細：

前期特別ゼミ／5月13日～7月29日 5回（参加者76名）

前期プラ座リーディングクラス／5月12日～6月7日 12回（参加者12名、発表会入場者63名）

前期プラ座演劇クラス／6月11日～7月14日 18回（参加者13名、発表会入場者156名）

だれでもワークショップ・ダンスクラス／6月8日～7月18日 3回（参加者19名）

だれでもワークショップ・演劇クラス／7月20日～8月12日 3回（参加者32名）

だれでもワークショップ・ジュニア演劇クラス／8月9日～8月11日 3回（参加者33名）

だれでもワークショップ・映像クラス／10月9日～1月9日 3回（参加者15名）

だれでもワークショップ・くるめと安徳天皇クラス／1月7日～9日 3回（参加者10名）

後期特別ゼミ／10月14日～2月17日 6回（参加者76名）

後期プラ座クラス／10月27日～1月20日 30回（参加者13名、発表会入場者167名）

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

久留米市は、九州一の大河である筑後川、その流れに沿って広がる肥沃な筑後平野、東西に連なる耳納連山などの豊かな自然に恵まれ、長い歴史と伝統の中で、豊かな文化育まれてきました。多くの文化資源に恵まれた久留米市は、文化芸術のまちとして、さらなる発展を目指し、平成28年度には、文化芸術の振興、広域的な交流の促進及び賑わいの創出の各機能を複合し、人が輝く文化・交流・活力を創造することにより、心豊かな市民生活の実現、広域的な求心力づくり及び街なかの賑わい創出を図り、もって本市の都市の活力の向上及び発展に寄与することを目的として久留米シティプラザを整備し、開館から今日まで上質で話題性のある鑑賞事業をはじめ、子どもの創造力・感性を高める多彩な事業、文化芸術の裾野を広げる普及啓発事業などさまざまな取り組みを行ってまいりました。

本事業は、久留米シティプラザの専門スタッフ職員で、これまで劇団運営から舞台演出など長年の経験を有す小松杏里を塾長とし、演劇を通じての人材養成等を図ることにより、久留米での更なる文化芸術活動の拡大を目指したものです。

また各講座では、各地域の演劇業界を牽引する人物を講師として招き、毎回バリエーションに富んだ内容とすることで、演劇の面白さと醍醐味を参加者に伝えてまいりました。また、久留米シティプラザのCボックス（小ホール）やスタジオ（練習室）などの施設を活用し、半年間に渡る期間（練習～仕込～本番発表）を通して、幅広い年代の特性を伸ばすとともに、演劇の持つ感受性を育むことを目指したプログラムで編成してまいりました。

このように、文化芸術に関する専門職員を有す利点を活かすとともに、優秀な外部講師等を配することによって、次代の文化芸術の担い手を育成していく事業の実施は、地域の文化芸術の発展に寄与しているものと考えています。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

本事業では、演劇をきっかけとした舞台芸術とそれに関わるさまざまな表現に触れる機会をつくり、地域への演劇普及活動の足がかりができるとともに、演劇に求められる高い専門性の習得と相互のネットワーク形成によって、久留米市内における演劇文化の基盤づくりを目指しています。

久留米市内には、演劇部を持つ中学校及び高等学校や、市民活動としての劇団も所在していますが、舞台芸術を職業としている、いわゆる「プロ」との交流には各団体濃淡あり、活動の場も限られているのが現状となっています。久留米シティプラザは、開館に合わせて、全国各地の公共ホールや舞台芸術に携わってきた人物を専門スタッフ職員として雇用し、施設の運営から事業の企画までの一切を行っています。地域からは、久留米シティプラザが有す舞台芸術や舞台技術に関するノウハウを共有し、教育現場や市民活動に活かしてほしいといったニーズがある一方、開館から3年ということから運営面としては安定期に入ったとは言えない状況にあり、これらのニーズに応えきれていないことが現状として挙げられます。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

久留米シティプラザにおける過年度までの演劇関連事業では、通年及び半期をかけて演劇を学ぶ講座のみに特化し、専門的な技能の習得や高いレベルの発表会を目指していましたが、参加者は相当の期間を稽古や練習等で拘束されてしまうため、多忙な社会人や受験生などからは、参加したくても参加ができないという声が寄せられていた状況がみられました。

そのため、当該年度（平成30年度）の事業では、これまでの通年及び半期間を要する講座に加え、時間があるときにスポットで参加ができる「特別ゼミ」や、未経験者でも気軽に誰でも参加できる「だれでもワークショップ」など新たなカテゴリーを設置し、多くの人々が演劇に触れることができる機会をつくり、アンケート結果では一定の評価を得ることができました。

一方、将来的には講座の卒業生が中心となり、市民によるフランチャイズ劇団の結成や県外公演など久留米シティプラザから全国へ発信できるための人材養成を目指しているところですが、本事業に関する市民の認知度は未だ低い状況にあります。また、演劇や舞台技術に求められる高い専門的技術の習得については一定の期間を要するなど単年度での取り組みでは限界があるといった課題も存在します。

今後は、今年度実施したようなワークショップ形式の講座を併設することで、演劇が持つ文化芸術性の普及啓発に取り組むことでの裾野を広げていくとともに、将来の文化芸術の担い手を育てていく中・長期的な事業計画を立案していくことで、久留米市の理念である「市民が主役の楽しい文化創造都市・久留米」を持続的に目指していく必要があると考えています。

また、事業主体である久留米シティプラザについても、市の直営施設として平成28年度の開館から3年が経過しましたが、施設運営や事業制作を担う人材の確保及び育成を大きな課題として認識しています。職員のキャリア構築に向けた組織体制や、運営形態の在り方などを整備することで、職員が安心して働くことができる環境を構築し、今後も文化芸術振興の拠点施設として位置付けられる運営を目指してまいります。